

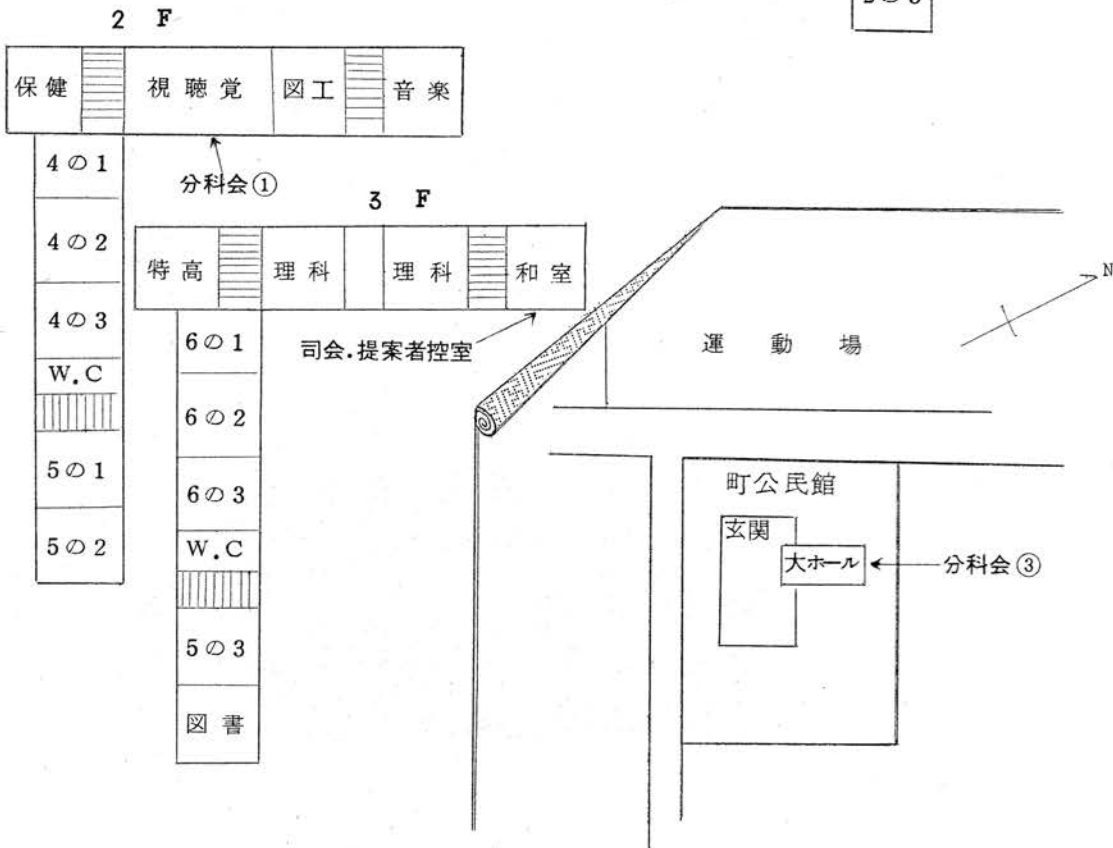
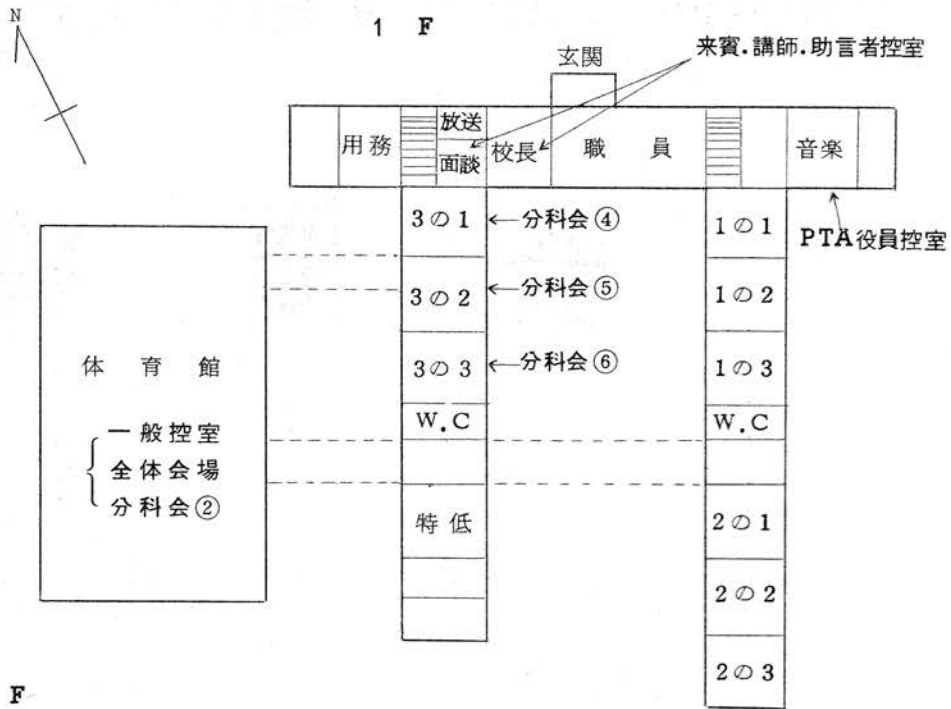
第6回 全国バス学習研究集会

# 大会要項

昭和48年10月26日・27日

主催 全国バス学習研究会  
滋賀県五個荘町立五個荘小学校  
後援 滋賀県教育委員会  
滋賀県神崎郡五個荘町  
滋賀県五個荘町教育委員会

(校舎案内図)



# 1. 日 程

第 1 日 (10月26日)

8.30 9.00 9.15 10.00 10.15 11.00 11.15 12.10 1.00 16.00

受付	朝の会	公開学習	公開学習	開会行事 基本提案	昼食	分科会
----	-----	------	------	--------------	----	-----

第 2 日 (10月27日)

8.30 9.00 10.30 10.40 11.30 12.00

受付	パネ ル 討 議	講 演	閉会 行事
----	----------	-----	----------

# 2. 公開授業

1校時 9.15~10.00

学 年 組	教 科	題 材 名	指 導 者
1 の 1	理 科	じしゃく	前 田 き ぬ
2 の 1	理 科	まめでんきゅうのつけ方	田 附 昭 良
2 の 2	理 科	やじろべえ	塚 本 千 文
3 の 1	国 語	五色のしか	国 領 敏 子
3 の 2	国 語	五色のしか	永 曾 由 紀 子
4 の 1	国 語	高い石の柱	阿 藤 市 太 郎
5 の 3	算 数	考えましよう(3)	滝 孝 二
6 の 1	算 数	考えましよう(4)	京 極 好 昭
6 の 3	算 数	考えましよう(4)	石 部 清 和
特 低	生 活	いもほり	佐 野 弥 生

2校時 10.15~11.00

学 年 組	教 科	題 材 名	指 導 者
1 の 2	理 科	あぶりだし	小 梶 和 子
1 の 3	理 科	じしゃく	里 田 俊 子
2 の 3	理 科	かみぶえ	徳 永 美 代 子
3 の 3	国 語	五色のしか	速 水 正 順
4 の 2	国 語	高い石の柱	豊 田 宸 典
4 の 3	国 語	高い石の柱	徳 田 慶 子
5 の 1	算 数	面積の求め方	藤 枝 す ゑ 子
5 の 2	算 数	考えましよう(3)	小 川 征 子
6 の 2	算 数	考えましよう(4)	北 村 三 郎
特 高	生 活	カレンダー作り	布 施 恵 津

# 3. 開会行事・基本提案 11.15~12.10

- |            |                               |         |
|------------|-------------------------------|---------|
| (1) 挨拶     | 五 個 荘 小 学 校 長                 | 森 寅 三   |
| (2) 祝 辞    | 滋 賀 県 教 育 委 員 会 学 校 教 育 課 参 事 | 珠 久 鶴 一 |
|            | 五 個 荘 町 長                     | 中 村 哲 三 |
| (3) 研究経過報告 | 五 個 荘 小 学 校 教 諭               | 小 菅 融 宣 |
| (4) 基本提案   | 五 個 荘 小 学 校 教 諭               | 石 部 清 和 |
| (5) 質疑     |                               |         |

## 4. 分科会

1.00~4.00

分科会名	助言者	司会者	提案者	場所
1 低 学 年 部	大津市志賀小学校校長 中島二郎 姫路市津田小学校教頭 加藤実 滋賀県教育委員会指導主事 太田源太郎	豊田市 小清水小学校教諭 鈴木省吾 滋賀県 能登川東小学校教頭 蚊野長剛	豊田市小清水小学校教諭 福岡金春 姫路市安室小学校教諭 小林靖子 徳島市福島小学校教諭 北村艶子 豊川市中部小学校教諭 森田ふみ 滋賀県五個荘小学校教諭 田附昭良	視 聴 覚 室
2 中 学 年 部	静岡県住吉小学校校長 河村寿計雄 姫路市網干小学校校長 松岡平八 滋賀県湖東第一小学校校長 池田新市	姫路市 安室小学校教諭 吉田武男 滋賀県 甲津畑小学校教頭 広田伊一	豊川市国府小学校教諭 森雅美 姫路市津田小学校教諭 福田君子 善通寺市筆岡小学校教諭 横田誉子 阿南市大井小学校教諭 古川巖 長野市湯谷小学校教諭 山田進 滋賀県五個荘小学校教諭 豊田宸典	体 育 館
3 高 学 年 部	元徳島市福島小学校校長 四宮恒夫 春日井市藤山台小学校校長 西尾為一 滋賀県地教委指導主事 大幡円融	豊川市 国府小学校教諭 鈴木昭 八日市市 玉緒小学校教頭 松島孝	姫路市網干小学校教諭 山田正智 豊川市平尾小学校教諭 瀬戸正夫 長崎市磨屋小学校教諭 田中浩一 徳島市八万小学校教諭 酒井義美 滋賀県能登川北小学校教諭 藤田治夫 滋賀県五個荘小学校教諭 京極好昭	公 民 館 大 ホ ー ル

分科会名	助言者	司会者	提案者	場所
4 特殊教育部	滋賀大附属小学校教諭 三原透 八日市市教育委員会 指導主事 西村辰雄	豊川市 中部小学校教頭 畑野定次郎 八日市市 御園小学校教諭 椿昭円	豊川市中部小学校教諭 丸山正克 春日井市東部中学校教諭 奥村浩康 長浜市西中学校教諭 広部佐久蔵 滋賀県五個荘小学校教諭 佐野弥生	三 の 一 教室
5 中学校部 (一)	春日井市東部中学校校長 梶田稲司 尼崎市日新中学校校長 前田義夫 滋賀県地教委指導主事 赤松弘淳	新潟市 曾野木中学校教諭 舟越和吉 滋賀県 五個荘中学校教諭 西村一夫	豊川市中部中学校教諭 山本武一郎 高知県奈半利中学校教諭 五藤健 春日井市藤山台中学校教諭 稲垣菊夫 兵庫県鹿谷中学校教諭 小林昌義 滋賀県五個荘中学校教諭 西田昇	三 の 二 教室
6 中学校部 (二)	豊川市中部中学校校長 白井仁 滋賀県五個荘中学校校長 横田証真 滋賀県地教委指導主事 山本隆男	春日井市 藤山台中学校教頭 藤原克巳 姫路市 飾磨中部中学校教諭 宿南勝之助	春日井市東部中学校教諭 石原憲 尼崎市日新中学校教諭 堤智恵子 新潟市曾野木中学校教諭 斉藤剛 広島県豊浜中学校教諭 植勝彦	三 の 三 教室

5. パネル討議 9.00~10.30 (第2日 27日)

「テーマ」	バズ学習と人間形成	
司会者	大津市立志賀小学校長	中島二郎先生
助言者	名古屋大学教授	塩田芳久先生
パネル員	滋賀県教育委員会指導主事	太田源太郎先生
	元徳島市立福島小学校長	四宮恒夫先生
	滋賀県湖東町立湖東第一小学校長	池田新市先生
	尼崎市立日新中学校長	前田義夫先生
	豊川市立中部中学校長	白井仁先生

MEMO

6. 講演

10.40~11.30

講師

名古屋大学教授 塩田芳久先生

「授業研究のあり方」

MEMO

7. 閉会行事

挨拶  
謝辞

五個荘町教育委員会教育長  
五個荘小学校長

安居仙松  
森寅三

# 第1学年1組 理科学習指導案 1校時

指導者 前田 きぬ

## 1. 単元 じしゃく

## 2. 目標

### 認知的目標

磁気は目に見えないが、物を磁石に引きつけ、更に離れている物や、間にある物を通しても引きつける働きがあることを理解させる。

### 態度的目標

(A) 事実を通して、自分で考え、自分で見つけようとする。

(B) はっきりと、みんなによくわかるように、おはなししようとする。

## 3. 教材の取り扱い

児童の多くは、日常生活の中で磁石を見たり扱ったりして、釘や金物を引きつける現象を経験しているが、それは組織だっていない認識である。そこで磁石に関する認識を物（磁石）と物（つく物、つかない物）の間に見られる現象をもとに系統づけて理解させる

## 4. 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1. 物には磁石につく物と、つかない物とがある。	・磁石には、どんな物がつくだろう。	1 (本時)
2. 磁石は端の方ほど物を引きつける力が強い。	・磁石の引きつける力は、どこがいちばん強いだろう。	1
3. 磁石と、つく物が離れていても、磁石は物を引きつける。	・磁石は離れた所にある物でも引きつけるだろうか。	1
4. 磁石と、つく物の間にビニル、水等をおいても引きつけるが、磁石につく金物をおくと引きつける力が弱くなる。	・磁石は間に物をおいても引きつけるだろうか。	1
5. 磁石を使って砂の中の砂鉄を集める。	・砂の中から砂鉄を取り出すことができるだろうか。	1



5. 本時の目標

認知的目標

身近にあるいろいろな物の中には、磁石につく物と、つかない物とがあることを理解させる。

態度的目標

- (A) 磁石につく物、つかない物を区別して、それを確かめようとする。
- (B) みんなに聞こえる声で、おしまいで、はっきりと、おはなししようとする。

6. 本時の指導過程

学習課題		じしゃくには、どんな物がつくだろう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
予想 中心 予想 中心 まとめ	1. 学習計画を確認する。 2. 磁石には、どんな物がつくだろう。 • つく物つかない物に分ける。 • 磁石を使って確かめる。 • 調べた結果をメモして話しあう。 3. 金物であつたら、どんな物でも磁石につくだろうか。 • 色々な金物に分ける。 (つく物、つかない物) • 磁石に引きつくかどうかを調べる。 • 見つけたこと、わかったことを話しあう。 4. きょうの学習でわかったことを話し合う。 5. 磁石は、どんなにしまっておくとよいか考える。	• 本時の課題を確かめさせる。 • 経験からの予想によって分類させ、その理由も述べさせる。 • 予想と比較して磁石に引きつけられる物をはっきりとらえさせる • 調べたことをメモさせる。 • 金物の中にも磁石につく物とつかない物とがあることをわからせる。 • 磁石につく物は色、形、大きさ重さ等で決まらないことに気づかせる。 • 本時のまとめをする。 • 磁石の磁性を失なわない扱い方を知らせる。 • 次時の課題を知らせる。	• 課題がしっかりつかめたか。 • 積極的に確かめようとしたか。 • 自分の考えを相手にはっきり話せたか。 • 課題にそつたまとめができているか。

第2学年1組 理科学習指導案 1校時

指導者 田 附 昭 良

1. 単元 まめでんきゅうの つけ方

2. 目標

認知的目標

- (1) 乾電池の二つの極と豆電球を導線でつなぐと、豆電球が点燈する。
- (2) 電気を通すものと、通さないものがあることを知らせる。

態度的目標

- (A) 回路をくふうして構成することで、多面的な見方、考え方をしようとし、電気を通すか通さないかの比較によって、物の物質的な見方、考え方をし、点燈するか否かの現象を、物と物との関係から見たり考えたりしようとする。
- (B) 友だちに、よくわかるように、おはなしをする。

3. 教材の取扱い

豆電球にあかりをつけるのに、乾電池がいることや、豆電球と電池との導線のつなぎ方は、ほとんどの児童が、生活経験を通して知っている。しかし、電流については、磁石の働きの学習経験から、磁気と混同している児童が少なくない。目に見えない物の働きについては、磁力・空気に続いて3回目の学習経験である。電球がつくことを通して、働きとしての電気や、電気の回路についての概念を初歩的につかませたい。

4. 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1. 1個の豆電球を1個の乾電池の決まった2個所につなぐと点燈する。	・豆電球を、電池につないで、あかりをつけてみよう。	1
2. 乾電池の両極と豆電球を輪のようにつなぐと、導線の長さや傾きに関係なく点燈する。	・電気は、どんなふうに伝わっていくのだろう。また、線を長くすると、豆電球の明るさは、変わるだろうか。	1 本時
3. 電気の導体と不導体とが区別できる。	・電気を通す物と通さない物を調べる。	1
4. スイッチのしくみを知り、スイッチを作ることができる。	・豆電球を、つけたり消したりするには、どうすればよいか、やってみよう。	1

5. 本時の目標

認知的目標

- (1) 乾電池の、十極と一極、豆電球の三点を、導線で輪のようにつなぐと、豆電球は点燈することを知らせる。
- (2) 導線の長さや張り方を変えても、豆電球は同じ明るさで点燈することに気付かせる。

態度的目標

- (A) 回路をくふうして、いろいろ確かめる中で、いろいろな見方・考え方をしようとする。(事実をたくさん見つけていこうとする)
- (B) はっきりした声で、みんなによくわかるようにおわりまで話そうとする。

6. 本時の指導過程

学習課題		電気はどんなふうに伝わり、線を長くすると電球の明るさは変わるだろうか。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
予想中心	1. 十極や一極のどこにつないでも、電球はつくだろうか。側面は、どうか調べる。 ・個人の思考 → 確かめ ・結果のグループバズ ・代表グループの発表につけ足しをする。	・極を点としてでなく、連続した広がりとしてとらえさせる。 ・メモを、させる。	・課題が、つかめたか。 ・いろいろ調べているか。 ・自分の実験結果を、しっかり伝えているか。
予想中心	2. 導線の長さや、電池の傾きなどで、電球の明るさは変わるだろうか。 ・個人の思考をメモする。 ・グループで確かめながら話し合う。(ク) ・代表グループの発表を聞く。	・課題を、しっかり意識づけさせる。 ・結線の方法を知らせる。	・予想から仮説へと高まったか。 ・協力して実験をすすめたか。
まとめ	3. きょうの勉強で、わかったことを、話し合う。 (グループ → 全体)	・各グループごとに、まとめ、発表させる。	・課題にそったまとめが、できているか。

第2学年2組 理科学習指導案 1校時

指導者 塚本千文

1. 単元 やじろべえ

2. 目標

認知的目標

- やじろべえの一方のおもりの重さや位置を変えると傾きが変わることから、やじろべえの傾きは、おもりの重さと位置に関係した傾けるはたらきによることを理解させる。

態度的目標

- (A) やじろべえの立ち方に興味を持ち、そのつくりを変えて、そのたびに立ち方の変り方を調べようとする態度をつけると共に安定したやじろべえを作ろうとする。
- (B) 自分の考えを友だちによくわかるように話そうとする。

3. 教材の取扱い

第一学年のシーソーの学習で、支点から等距離に物を置いた場合、シーソーが傾けば、下がった方に置かれた物の方がもう一方に置かれた物よりも重いこと、及びシーソーが傾かない時には両方の物の重さは等しいということを学習している。

子どもたちは重さについて、大きい物は重い、小さい物は軽いという見方をしている者がかなりいる。物の大小や形には関係なく、重さの違いにより、シーソーややじろべえが傾くことを本単元で気づくことが出来るであろう。

男児19名、女児14名、計33名の学級構成であるが、学習活動全般を通してどちらかといえば消極的で、バズ学習の時にも、自分の考えがうまく表現できず、他に同調してしまう傾向の児童が約 $\frac{1}{4}$ 位あり現在訓練中である。

4. 指導計画

指導内容	学習課題	
1. 学習計画を立てる。 2. 直立するやじろべえを作る。	・やじろべえを作って、まっすぐに立つようにくふうしよう。	1 (本時)
3. やじろべえの傾きは、おもりの重さと位置に関係する。	・やじろべえの、うでやおもりを変えたらその立ち方はどう変わるだろう。	1
4. やじろべえをまっすぐ立てるには、おもりの重さと位置の相互関係による。	・大きくゆれても落ちないやじろべえを作ろう。	

5. 本時の目標

認知的目標

- (1) やじろべえの傾きから相対的な重さの違いで傾きが変わることに気づかせる。
- (2) まっすぐに立つやじろべえを作ることができる。

態度的目標

- (A) 材料をくふうしてまっすぐに立つやじろべえを作ろうとする。
- (B) 自分の考えや見つけたことを相手にはっきり知らせようとする。

6. 本時の指導過程

学習課題	やじろべえを作って、まっすぐに立つようにくふうしよう。		
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
予 想	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習計画を知る。</li> <li>2. やじろべえが立つようすを見て話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・示範用やじろべえの観察</li> <li>・各部分の名称</li> <li>・まっすぐに立つのは？</li> </ul> </li> <li>3. やじろべえを作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料・作り方等をグループで話し合う。(グループバズ)</li> <li>・計画に従ってやじろべえを作る。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の見通し(把握)</li> <li>・示範用のやじろべえを見てやじろべえのふしぎさを感じさせる。</li> <li>・観点からはずれない製作ができるように方向づける。(机間巡視で個別指導)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しが立てられたか。</li> <li>・やる気(興味)を持ったか。</li> <li>・いろいろな考えをしているか。</li> <li>・自分の考えを相手にはっきり伝えたか。</li> </ul>
中 心	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. やじろべえが、まっすぐに立つようにくふうする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考えてみる。(個人思考)</li> <li>・グループで意見を交しながら直立するやじろべえにする。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直立させようとする自由な試みをできるだけ多くさせながらいろいろな立ち方を見させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力し合ったか。</li> <li>・うまく立つやじろべえが作れたか。</li> </ul>
ま と め	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. まっすぐに立つようにくふうしたところを発表し合う(全体バズ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のくふうした点</li> <li>・直立させる条件</li> </ul> </li> <li>6. 次時の課題について話し合う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件は、おもりの重さ及びびりでの長さや開き方が左右対称だろうとまとめる。</li> <li>・左右のおもりの重さやびりでの長さを変えるとどうなるだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん見つけたか。</li> </ul>

第3学年1組 国語科学習指導案 1校時

指導者 国領敏子

1. 題材 五色のしか

2. 目標

認知的目標

- (1) 読んで感想が持てるようにする。
- (2) 表現に即して読み、表現のすぐれているところに気づくようにさせる。
- (3) 説話を読むことにより、古典に興味を持つと共に人の生き方や信頼の情のたいせつさに気づかせる。

態度的目標

- (A) 深く読み調べ、男の心情の変化やしかの心にふれ感想を持とうとする。
- (B) 人の考えをよく聞いて、自分の考えを広めようとする。

3. 教材の取り扱い

- (1) 登場人物の言動や考え方に、共感したり批判したりしながら読み、昔話に親しませたい。
- (2) 「自分ならこうする」というように、自分の考えと比べて感想を持つようにしたい。
- (3) 表現に即して、登場人物の心情をきめ細かに読みとらせたり、表現の美しさ、構成のたくみさを味わったりさせたい。
- (4) ひとりひとりの課題に対する追究の態度を高め、自分の考えをしっかり持たせたい。

4. 指導計画

指導内容	学習課題	時
1. 全文を読んで各児感想を書く。	• はじめの感想を書き学習計画を立てよう。	3
2. 場面ごとの人物や動物の言動をまとめ、その心情を追究する。 (1) しかが男を助けてやったときのしか・男の気持ちを読みとる。 (2) 立て札をみた男の動揺を読む。 (3) しかがとらえられた場面でのしか、男、王様の気持ちを読みとる。	• しかと男の気持ちを調べよう。 • 2の男の気持ちを考えよう。 • 男を見た時のしかの気持ち、王様の気持ちを読みとろう。	5 本時はその5
3. 感想を深める。	• 全文を読んでしかの美しい心・王様の心を感じとる。はじめの感想と比べながらくわしく書こう。	2
4. 音読し、ことばの学習をする。	• 情景や気持ちを思い浮かべて音読する。	1

5. 本時の目標

認知的目標

(1) しかや王様の気持ちを読みとらせる。

態度的目標

(A) 王様が新しい立て札を立てさせたのはなぜか、そのわけを文からたくさんみつけようとする。

(B) 人の意見を自分のと比べながら聞こうとする。

6. 本時の指導過程

学習課題		王様はなぜ新しい立て札を立てさせたのだろう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備中 心 確 認	<p>(個人思考)</p> <p>1. ノートを見ながら話し合いの準備をする (グループバズ)</p> <p>2. からの知らせを受けたとき・王様の前に進み出るとき・男を見たときなどのしかの気持ちや王様の気持ちについて話し合う。 (全体バズ)</p> <p>3. みんなで考えを深め合う。</p> <p>4. 3を読んで題をつけよう。</p>	<p>個人思考した事からの中から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の話そうとする部分に線を入れさせる。</li> </ul> <p>• 文に即しながら、いろいろの角度から話し合わせ、友だちの考えをよく聞いて、自分の考えもわかるように話させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男の気持ちはどうだろうか想像したことも話し合わせる。</li> </ul> <p>• 立て札が新しく書き変えられたわけを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する関心がある。</li> </ul> <p>• ノートを見ながらよくわかるように話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比べながら聞く。</li> </ul> <p>• みんなの中で進んで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>熱心に取り組む</li> <li>新しい立て札に変わったわけを考えることができる。</li> </ul>

指導者 永曾由紀子

1. 題材 五色のしか

2. 目標

認知的目標

- (1) 読んで、感想が持てるようにさせる。
- (2) 表現に即して読み、表現のすぐれているところに気づかせる。
- (3) 昔話に興味を持ち、人間の生き方や、信頼の情のたいせつさに気づかせる。

態度的目標

- (A) 文章の表現に即して、登場人物や動物の行動や心情を読みとろうとし、「自分ならどうするだろう。」と比べながら、感想を持とうとする。
- (B) 人の考えをよく聞き、自分の考えを広めようとする。

3. 教材の取り扱い

3年になって、子どもたちの本への興味は、大きくなってきた。しかし、その読みとりは浅く、この教材においても、「悪い男だ。いい鹿だ。」「約束を守ろう。」といったあらい読みとりが多いと思われる。そこで、表現に即して、登場人物の心情をきめ細かに読みとったり、表現の美しさや構成のたくみさを味わわせて、主題にせまる読みとりができるようにさせたい。また、登場人物の言動や考え方について、自分の考えと比べて感想が持てるように主体的な読みの態度を身につけさせたい。

4. 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1. 学習計画をたてる。	・全文を読んで、学習計画をたてよう。	2
2. 登場人物や動物の行動や心情を場面ごとに読みとる。	・登場人物や動物について感想を書こう。 ・男と鹿の約束について考えよう。 ・ひとりの男について考えよう。 ・しかと王様の気持ちを考えよう。	2 1 1 2 本時
3. 読後感想を深める。	・感想を書き、話し合おう。 ・心をこめて、朗読しよう。	2 1



5. 本時の目標

認知的目標

- (1) ひとりの男が、鹿との約束を金銀への力にはさまれて思い迷う様子（人間の弱さ）を、自分と比べながら読みとらせる。

態度的目標

- (A) 男のしたことや考えたことから、男の迷い気持ちを考えようとする。  
 (B) 友だちの話を比べて聞き、自分の考えをわかりやすく話そうとする。

6. 本時の指導過程

学習課題		ひとりの男について考えよう（2の場面）	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備	1. 学習の準備をする。	・課題提示。	・課題への関心がある。
中	2. ひとりの男について話し合う。 （グループバズ） （全体バズ）	・感想をもとに、自由な考えを話すようにさせる。意見がくいちがうときは、本文にかえて考えるようにさせる。	・積極的に話す。
	3. 男の気持ちの変化を文中から見つける。 （個人思考）	・男のまよっている様子から、男のしたことは人間の持っている弱さであることに気づかせる。	・熱心にとりくむ。
心	4. 話し合う。 （グループバズ） （全体バズ）	・時間の都合でグループバズは、できないかと思われる。	・自分の考えと人の考えを比べる。
	5. 学習のまとめをする。	・男について新しく考えたことを書かせ、発表させる。	・いろいろな立場から考える。
確認			

第4学年1組 国語科学習指導案 1校時

指導者 阿藤市太郎

1. 高い石の柱（童話）

2. 目標

認知的目標

- (1) 登場人物や作者の考えを読み取り、感想や意見を話し合わせる。
- (2) 表現に即して場面やその情景を思い描かせる。

態度的目標

- (A) 友達の感想を聞いて、自分の感想をより確かな、すじの通ったものにしようとする。
- (B) 聞く人の立場にたって、わかりやすく話そうとする。

3. 教材の取り扱い

この作品に出てくる王様、家来、石屋の性格や考え方は対照的であり、子ども達はそのそれぞれに共感や反発など様々な意見、感想を持つものと思われる。しかし、たしかな意見、感想を持つためには先ず正しい読み取りが必要であり、そのために話の筋をおさえ、人物の言動を物語全体の中でしっかりおさえていきたい。

次に、おたがいの考え方のちがいについて十分な話し合いを行なうことによって、自分の気づかなかった考えを聞き、それによって自分の考えを修正できる点は修正しながらも、より補強し合って、ひとりひとりの感想をより深く確かなものとしていかせたい。

4. 指導計画

指導内容	学習課題	時
1. 調べ読みをしながら、全文を通読する。	・印象の深かったところを中心に感想を書こう。	1
2. 学習計画をたてる。	・みんなで考える問題を話し合おう。	1
3. 登場人物の言動や考え方を読み取る。	・おたがいの考えのちがいについて話し合おう。	3 $\frac{1}{3}$ 本時
4. 作者の考えを読み取る。	・作者の言いたかったことを話し合おう。	2
5. 全文を読み、感想をまとめる。	・感想を書こう。	1
6. 練習と評価	・ことばの学習とまとめをしよう。	2

## 5. 本時の目標

### 認知的目標

- 王様の横暴な言動とそれに対する家来の行動や考えについて感想を話し合わせる。

### 態度的目標

- (A) 王様や家来の、行動や考え方について、ひとりひとりの受け取り方の違いを考え話し合おうとする。
- (B) 大切と思われる意見や感想をしっかりとっておさえて話し合おうとする。

## 6. 本時の指導過程

学習課題	王様や家来の言動、考えについて話し合おう。		
区分	児 童 の 活 動	教 師 の 活 動	評価の観点
準備 中心 確認	1. 本時学習課題の確認 2. 王様、家来の言動を読みとる。 3. 読みとったことをもとにして、グループで感想を話し合う。 4. 全体で、問題点を話し合う。 5. 「今日の勉強から」を書く。	• 学習課題の提示 • 王様、家来のイメージづくりをさせる。 • 王様、家来の言動について感想を話し合わせる。 • 考え方の大きな差違点を焦点づけてやる。 • 評価	• 課題への関心 • 感想が話せる。 • 自分との差違点に気づく。

第5学年3組 算数科学習指導案 1校時

指導者 滝 孝 二

1. 単元 考えましょう (3)

2. 目標

認知的目標

- (1) 解答や条件に範囲がある問題を解決する能力を養う。
- (2) いろいろな事象について、順序よく推論を進め、判断をくだす思考力を養う。

態度的目標

- (A) 筋道だてて考えを進め、判断し、解決しようとする。
- (B) 自発的に個々の考えを拡げ、友だちと協力し合って、さらに深めようとする。

3. 教材の取り扱い

この単元の教材は、時間さえかければ、半数ぐらいの児童ができるであろう。しかし、その思考過程は順序だったものではなく、ただ単なる思いつきから解法するものが大半であろうと思われる。よって本単元においては、児童が順序よく推論を進めて解法するよう指導していきたい。

4. 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1. 全単元を見通し、学習計画をたてる。	・学習全体を見通し、何を学習するかの計画を立てよう。	1
2. 範囲のある2組の条件から、求められる解答を考えさせる。	・組の人数と長いすの数について考えよう。	1
3. 解答に範囲のある問題を考えさせる。	・条件にあったテストの点数について考えよう。	1
4. 数量に関して、順序よく推論を進め判断する問題を考えさせる。	・3人のまとあて競争のあて方について考えよう。	1 本時
5. 事象の組み合わせや順序について、順序よく推論を進め、判断する問題を考えさせる。	・事がらの組み合わせの予想についてすじ道だてて考え、判断しよう。	1

5. 本時の目標

認知的目標

数量に関して、順序よく推論を進めて判断する態度を養う。

態度的目標

(A) 条件を順々に整えながら、筋道だてて判断しようとする。

(B) 自分の考えを進んで述べ、他の意見も求めて互いにみがきあおうとする。

6. 本時の指導過程

学習課題		3人のまとあて競争のあて方について、図表を見て考えよう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備	1. 本時の学習課題について知る。 (個人思考)	・本時の学習課題を提示する。	・目標を知ったか。
中心	2. まとあて競争のあて方について一人で筋道だてて考える。 (グループバズ)	・まとあて競争について個人で考えさせる。	・熱心に取り組んだか。
	3. 一人で考えた筋道についてグループで話し合う。  (全体バズ)	・個人で考えた問題についてグループで話し合わせる。 ・答えではなく、どのように考えていったのかを話し合うよう指示する。	・進んで自分の考えを述べ深めたか。
確認	4. グループで話し合った内容を発表する。 (個人思考)	・どのような筋道で考えたか発表させる。 ・筋道だった考え方を示す。	・よりよい方法を見つけたか。
	5. しょうゆさしとますのそれぞれの組み合わせを考える。 (全体バズ)	・しょうゆの量について考えさせる。	・次の学習意欲の高まりはあったか。
	6. 個人で考えたことを発表する。	・個人で考えたことを発表させる。 ・筋道だった考え方を示す。	
	7. 次時の学習について知る。	・次時の学習について確認させる。	

第6学年1組 算数科学習指導案 1校時

指導者 京 極 好 昭

1. 単元 考えましよう (4)

2. 目標

認知的目標

- 簡単なことからについて、場合を順序よく整理して、そのすべての場合をあげたり、数を求めたりすることができるようにさせる。

態度的目標

- (A) 起り得る場合をいろいろ考え、落ちや重なりのないよう、順序よく整理して考えようとする。
- (B) 課題解決に全員が参加することを目指し、協力し合って深める。
  - 自発的に個々の考えを上げたり、深めたりしようとする。
  - 相手の立場を尊重し合って、意見を聞いたり話したりする。

3. 教材の取り扱い

場合の数の学習は5年生までに随所で取り扱ってきたが、すべての場合をつくすまでの指導はされていない。そこで、この単元1では単純な組み合わせや順列について、2ではやや複雑な場合を問題にして、あらゆる場合を順序よく整理する能力を育てたいと考える。

4. 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1. 学習前テストを行い、全単元を見通し、学習計画を立てる。	・学習計画を立てる。	1
2. 簡単なことからについて、起り得る場合と、その数を順序よく整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある数の中から決った数だけ選ぶと組み合わせが何通りできるかを考える。</li> <li>・いくつかのものを全部並べる場合に何通りの並び方があるかをみつける。</li> </ul>	2 ( $\frac{1}{2}$ 本時)
3. やや複雑なことからについて、起りうる場合と、その数を順序よく整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや複雑な場合の組み合わせの問題を順序よく整理する方法を知る。</li> <li>・やや複雑な場合の組み合わせの問題でどんな組ができるかもれなく考える。</li> </ul>	2

5. 本時の目標

認知的目標

- 簡単な場合について、組み合わせとその場合の数を考えさせる。

態度的目標

- (A) 落ちや重なりのないようにすることに気をつけて考えようとする。
- (B) 自分の考えを進んで出し、仲間の考えと比べながら学習に参加する。

6. 本時の指導過程

学習課題	ある数の中から決った数だけ選ぶと組み合わせが何通りできるかを考える。		
区分	児 童 の 活 動	教 師 の 活 動	評価の観点
準備 中 心 確 認	<p>1. チームを組み合わせるのに何通りあるかを考える。 (個人思考) 自分の好きな方法で何通りあるかを考える。 (グループバズ) どんな方法で見つけ、何通りあるか話し合う。 (全体バズ) 順序よく整理されたか検討する。</p> <p>2. 5人の中から4人の選手を選ぶ問題を考える。 (個人思考) 条件に気をつけて考える。 (グループバズ) 記号化を生かして考えたか話し合う。 (全体バズ) 課題についてまとめる。</p> <p>3. 次時の学習課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 問題を読んで課題を把握させる。</li> <li>• いくつかのものの中から一定個数を選んで、落ちや重なりのないように組み合わせることの意味を確かめさせる。</li> <li>• 各自の考えを大切にし、自由な方法で見つけさせる。</li> <li>• 考え方や方法をくらべて自分の考えをたしかめさせる。</li> <li>• 整理しながら、落ちや重なりのない見つけ方を再確認させる。</li> <li>• ひとりづつが抜ける場合の組み合わせであることが条件になっていることを明確にさせる。</li> <li>• 整理しやすいよう記号化することを考えさせる。</li> <li>• 条件が満たされているか、誰にもわかる整理の方法かを考えさせる。</li> <li>• 記号化することによって順序よく整理できることを理解させる。</li> <li>• 次時の学習課題をたしかめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習の目標を達成できたか。</li> <li>• 自分なりの方法で解こうと熱心に取り組みたか。</li> <li>• 積極的に話し合いに参加したか。</li> <li>• 個人の考えに固執せず協同で解決するよう努力したか。</li> </ul>

第6学年3組 算数科学習指導案 1校時

指導者 石部 清和

1. 単元 考えましょう(4)

2. 目標

認知的目標

- 簡単なことがらについて、場合を順序よく整理して、そのすべての場合をあげたり、数を求めたりすることができるようにさせる。

態度的目標

- (A) 起こり得る場合をいろいろに考え、落ちや重なりなく、順序よく整理して考えようとする。
- (B) 課題解決に全員が参加することを見ざし、協力し合って深める。
  - ・自発的に個々の考えを広げたり深めたりしようとする。
  - ・相手の立場を尊重し合って意見をいったり、話し合ったりする。

3. 教材の取り扱い

この単元では、起こり得る場合の数をただ数えるということだけでなく、組織的にその場合を順序よく整理して考えさせることが、学習のねらいである。①は、単純な組み合わせや順序の問題を、②はそのやや複雑な場合の問題について、その考え方をねる過程を重視する。

4. 指導計画

学 習 内 容	学 習 課 題	時
1. 学習前テストを行ない、全単元を見通し、学習計画を立てさせる。	・学習計画を立て、学習の目あてを知る。	1
2. 簡単なことがらについて、起こり得る場合と、その数を順序よく整理させる。	・ある数の中から、きまった数だけ選ぶと組み合わせが何通りできるかを考える。 ・いくつかのものと全部ならべる場合に、何通りの並び方があるかを見つける。	2
3. やや複雑なことがらについて、起こり得る場合と、その数を順序よく整理する。	・やや複雑な組み合わせの場合の問題を、順序よく整理して考える方法を知る。 ・やや複雑な組み合わせの場合の問題で、どんな組み合わせができるかをもれなく考える	2 ( $\frac{1}{2}$ 本時)



## 5. 本時の目標

### 認知的目標

- やや複雑な組み合わせの、起こり得る場合を、順序よく整理して考える方歩を理解させる。

### 態度的目標

- (A) 組み合わせの一方を決めて、落ちなく重なりなく順序よく考えようとする。
- (B) し方をいろいろに考え、順序立てて話し合い、補ったりつけ足したりして深めようとする。

## 6. 本時の学習過程

学習課題		やや複雑な組み合わせの場合の問題を、順序よく整理して考える方法を知る。	
区分	児童の活動	教師の活動	
準備	1. ご石を5個ずつ取り出す時 白赤の出方について考える。 (個人)	• ご石の取り出し方について示し、題意を明らかにさせる。 • 予想の通り記号によって順序よく整理して考えさせる。	• 目あてを知ったか。 • 自分の考え方によって
中心	• 予想を立て記号で表わす。 (グループバズ) • 順序立てて整理した考え方で何組できたか話し合う。 (全体バズ) • 組み合わせ方を話し合う。	• 組が白だけ赤だけ混合の時等のあることに気づかせる。 • 一方の数がきまると、場合の数が決まることを理解させる。	• 熱心に取り組んだか。 • 積極的に話し合いに参加したか。
確認	2. 男女各3人によってできる 当番の組み合わせを考える。 (個人) • 男女別の当番と男女混合の場合いとを考える。 (グループバズ) • 組みの作り方を話し合う。 (全体バズ) • 課題についてまとめる。	• 2通りの場合いの組の作り方を明らかにする。 • わかりやすく図示し、落ちなく重なりなく考えさせる。 • 自分の考え方を順序よく話させ条件に合うかを確認させる • 場合の数の考え方や整理のし方を理解させる。 • 次時の課題を確認させる。	• 順序よくねばり強く考えたか。 • 全体で協力して課題解決に取り組んだか。
	3. 次時の学習課題を知る。		

# 特別学級(低) 学習指導案 1校時

指導者 佐野 弥生

## 1. 主題 秋の野山

## 2. 目標

- (1) 秋の虫や草花を観察し、自然に親しむ態度を養う。
- (2) みよりの秋が、生活を豊かにしてくれることを知らせる。

## 3. 教材の取り扱い

季節の変化に微妙に関係する内容でしかも9月のはじめごろから11月の終りごろまでの長期にわたる学習活動が予想されるので、「運動会」「はたらく人々」の学習とも重ねて時期をのがさぬように取り扱いたい。

四角い教室の中でじっとして考えたり、教師の話の聞いたりして理解することは、きわめて限られたことである。とりわけことばのおくれている人にとってはなおさらのことである。そういう意味でも、この学習は外に向けての活動が多く、実際に経験したり、直接手に触れたりして実のあるものにして行きたいと思う。

## 4. 主な学習活動

- (1) 他校のお友だちと一語に、なしがりをする。(隣接5校の交歓学習)
  - (2) 秋の虫を飼育し観察する。
  - (3) 稲のとり入れのようすを見学する。
  - (4) いもほりをする
  - (5) 学級園の手入れ
  - (6) くだものや、やさいしらべ
  - (7) 木の葉や木の実を集めて造形あそびをする。
- 学級園のいもほりをする。

— いもほりのようすを、絵や文に書く。

— 自分のさつまいもと、お友だちのさつまいもの重さと比べる。(本時)

— さつまいも以外でくらべっこをする。

## 5. 本時の目標

- おくれている子を援助してみんながなかよく学習に参加する。
- お友だちのさつまいもの重さとくらべる。

		予想される個人の到達目標								
個人をあらわす記号		1	2	3	4	5	6	7	8	9
予想される目標										
重いか軽いか模放でもよいからいえる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○
目で見ても、重いか軽いか自分で考えていえる。			○		○	○	○	○	○	○

手で持ってみて重いか軽いか見つけられる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
台ばかりを使うと重さがはかれることがわかる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
台ばかりを使って重さがはかれる。					○	○	○		
はかった重さを、数字や記号を使ってかける。				○	○	○	○	○	
簡単なグラフや表に、はかった結果があらわせる				○	○	○	○	○	
ふたつの重さをあらわす数字や記号をみて比べる					○	○	○		

## 6. 本時の指導過程

区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備	1. 歌を歌いながら、いもほりのようすを、模放遊びする。 2. 友だち同志、自分のさつまいもを見せ合う。 3. きょうの学習のめあてがわかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おみこしわっしょい」の曲をならす。</li> <li>個々の児童が、どんなことを問題にしているか把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなと一諸にやろうとしているか（個）</li> </ul>
中心	4. 2グループ（グループ間異質）にわかれて調べる。 5. しらべたことを、表やグラフに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お友だちのさつまいもとどちらが重いでしょう」という問いかけをする。</li> <li>個々の児童が、能力相応の仕事ができてきているか観察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きょうのめあてがわかっているか（個、グ）</li> <li>おくれている子を援助してみんながなかよく学習に参加しているか（グ）</li> </ul>
確認	6. しらべたことを、みんなの前にて発表する。 7. 次時の学習に期待をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぬけていることや、まちがっていることは、教師のおたずねという形で、補足させる。</li> <li>おいも以外のもので、くらべっこをすることを予告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりと、わかるようにいえているか（個、グ）</li> </ul>

第1学年2組 理科学習指導案 2校時

指導者 小 梶 和 子

1 単元 あぶりだし

2 目標

認知的目標

- (1) くだものには、水とは違う水分が含まれていて、種類によって、汁の色、におい、手ざわりなどに違いがあることに気づかせ、汁のしぼり方を考えさせる。
- (2) くだもの汁をぬった紙を、あぶりだすことによって、汁の共通な変化と、その特性を理解させる。

態度的目標

- (A) 興味深く、実験・観察をし、水に溶けた物質の特性を、見つけようとする。
- (B) はっきりとみんなによくわかるようにお話ししようとする。

3 教材の取り扱い

「あさがおのはなとする」の学習で、「花には、汁があるから、うつし絵ができた。」と気づいた子ども達に、くだもの汁をしぼったり、あぶりだしをする経験を通して、物質の特性と、変化の初歩的な科学的な見方、考え方を養いたい。それらの見方、考え方で、興味深く自然に接していく態度を持たせ、今後の発展への基礎を培いたいものである。

4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1 いろいろなくだもの	○くだものには、どんな汁が、あるだろう。	1
2 くだもの汁は種類によって色、におい、手ざわりなどに違いがある。	○いろいろなくだものから 汁をしぼって そのよ うすを 比べましょう。 ○とれた汁で 字や絵をかくて乾かし 色が変わる かどうか調べましょう。	2 本時 (その1)
3 くだもの汁であぶりだしができ、汁の濃さやあぶり方によって、出てくる色が違う。水ではあぶりだしができない。	○火であぶると、色はどうなるでしょう。 ○あぶり方や、汁の濃さを変えて、比べてみま しょう。 ○くだものでない物の汁でも、あぶりだしをしてみ ましょう。	3

5 本時の目標

認知的目標

- (1) くだものの汁は、取り出すことができ、色、味、におい、手ざわりなどに違いがあることに気づかせる。

態度的目標

- (A) すすんで実験したり、調べたりしようとする。  
 (B) 元気な声で みんなによくわかるように 話そうとする。

6 本時の指導過程

学習課題		くだものから 汁をしぼって そのようすを 比べましょう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
予 想 中 心 ま と め	1 本時の学習のめあてを知る。	○本時の課題を確認させる。	○課題が正しくつかめたか。
	2 ○りんごとみかんから、どうして汁をとればよいか考える。 ○どんな汁が出るか予想する。	○くだもの中のようすから、しぼりやすい方法を考えさせる。	○よくわかるようにお話できたか。
	3 汁をしぼる実験をする。	○自分でやってみたい方法でさせ、よりよい方法に気づかせる。	○興味深くやれているか。
	4 ○2つの汁を比べてみる。 (色、味、におい、手ざわり) ○水とも比べる。 ○どんなところが 違うか 気づいたことを話し合う。	○感覚を通して、くだものの汁 相互の比較、水との差異点を明らかにさせる。	○よくわかるようにお話できたか。
	5 次時の学習について知り 本時の自己評価をする。	○次時の課題を知らせる。	○カードに記入できたか。

第 1 学年 3 組 理科学習指導案 2 校時

指導者 里田俊子

1 単元 じしゃく

2 目標

認知的目標

- (1) 磁気は目に見えないが、物を磁石に引きつけ さらに はなれている物や間にある物を通して、引きつける働きがあることを理解させる。

態度的目標

- (A) 事実を通して自分で考え、自分で見つけようとする。  
 (B) はっきりとみんなによくわかるようにおはなししようとする。

3 教材の取り扱い

磁石は、児童の生活には比較的身近なものである。しかし、児童の認識は 磁石に金物がつくといった程度のものである。磁石そのもののもつ性質については、あまり知らない。この単元では、いろいろな磁石の性質を理解させたい。

4 指導計画

指 導 計 画	学 習 課 題	時
1 学習計画を立てる。 2 磁石につく物とつかない物がある。	○磁石には、どんなものが つくだろう。	1
3 磁石は端ほど引きつける力が強い。	○磁石の引きつける力は、どこがいちばん強いだろう。	1 (本時)
4 磁石と つくものが離れていても磁石は物を引きつける。	○磁石は離れた所にある物でも引きつけるだろうか。	1
5 磁石はビニル、水などの物で隔てても鉄を引きつけるが磁石につく金物で隔てると引きつける力が弱くなる。	○磁石は間に物を置いても、引きつけるだろうか。	1
6 磁石を使って砂の中の砂鉄を集める。	○砂の中から砂鉄をとりだすことが、できるだろうか。	1

5 本時の目標

認知的目標

(1) 磁石は、端の方ほど物を引きつけるはたらきが強いことを理解させる。

態度的目標

(A) 磁石は、どこによくくぎを引きつけるか、しらべようとする。

(B) 友だちに よくわかるように、はっきりと おはなししようとする。

6 本時の指導過程

学習課題		磁石の引きつける力は、どこがいちばん強いだろう。		
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点	
予 想  中 心  ま と め	<p>1 磁石で、釘やクリップなどをたくさんつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 釘は磁石のどこによく、つくか話し合う。(ペア、バズ)</li> <li>○ 磁石で釘、クリップを集める。</li> <li>○ ほかの磁石で確かめる。</li> </ul> <p>2 磁石の引きつける力は、どこがいちばん強いかわかるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べる方法を話し合う。(ペア・バズ)</li> <li>○ 磁力のちがいを調べる。</li> </ul> <p>○ 結果について話し合う。</p> <p>3 いろいろな磁石の磁力のちがいを比べる。</p> <p>4 自己評価する。(カードに記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確かめさせる。</li> <li>○ 磁石の端の方に、よくつくことに気づかせる。</li> <li>○ U 磁石と棒磁石について別々に整理する。</li> <li>○ 個人思考をたいせつにする。</li> <li>○ 磁力の強さを定量的にとらえさせる。</li> <li>○ 引きつける所を2段階に分けて比較させる。</li> <li>○ 釘のつき方を磁石の引きつけ方としてとらえさせる。</li> <li>○ 磁石によって磁力に強弱のあることを知らせる。</li> <li>○ 次時の課題を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題がつかめたか。</li> <li>○ 自分の考えをはっきりとお友だちに話せたか。</li> <li>○ お友だちの話がよく聞けたか。</li> <li>○ 自主的に調べられたか。</li> <li>○ 課題に、そつた学習活動ができたか。</li> </ul>	

第2学年3組 理科学習指導案 2校時

指導者 徳永美代子

1 単元 か み ぶ え

2 目標

認知的目標

音が聞こえているときは、音を出しているものが、ふるえていることや、そのふるえが、物を伝わることを理解させる。

態度的目標

(A) 実験によって音が出る時は、どのような状態になっているかということを見つけておそうとする。

(B) 友だちによくわかるように、お話をする。

3 教材の取扱い

学級の実態をさぐると、笛、たいこ、トライアングルなど、音の出る楽器のあることや、音を出す操作として「たたく」「ふく」「はじく」など、日常生活の中で経験しているが、「どうして音が出るのか。」「音が出る時、そのものがどうなっているのか。」ということについては、ほとんどの児童が意識していない。そこで、この単元においては、すでに知っている経験や知識を科学的な知識に発展させる第一歩として、遊びの中で、きもんや課題を与え、ふるえることと音を関係づけてとらえさせたい。

4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1 紙ぶえが、音を出している時には、紙が、ふるえている。	○紙ぶえは どうして音が出るのだろう。	(本時) 1
2 リードをつけた ふえを鳴らした時には、リードが ふるえている。	○リード笛も 音が出るのだろうか。	1
3 いろいろの紙をつかって 紙の ふるえる ようすを調べる。	○紙のあつさをかえて、声をあてた時 紙はどうなるだろう。	1
4 太鼓や 輪ゴムを鳴らした時には、その皮や輪ゴムが ふるえている。	○太鼓や 輪ゴムを鳴らした時 皮や 輪ゴムはどうなるだろう。	1



5 本時の目標

認知的目標

○紙ぶえを吹いて音が出ている時 その現象に気づかせる。

態度的目標

(A) 音が出ている時の物のようすに気をつけ、音と音を出すものを、関係づけて見ようとする。

(B) 相手によくわかるように話そうとする。

6 本時の指導過程

学習課題		紙ぶえは、どうして音が出るのだろう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
予 想    中 心  ま と め	1 たいこを使って音を出してみる。	○課題をわからせ 印象づけることから 意欲をもち上げる。	○学習への とりくみはよいか。
	2 音が出ている時の たいこの皮のようすを見たり さわったりして 感じたことを 話し合う (バズ)	○太鼓の皮に豆粒をのせること によって 目で見えない音と皮のふるえるようすを 関係づけてとらえさせたい。	
	3 課題計画をしる。	○課題の見通し (把握)	○課題がしっかり つかめたか。
	4 かみぶえを作る。		
	5 かみぶえは どうして音が出るのか 実験や観察をしてしらべる。	○紙を吹いて音が出ているとき、紙が ふるえている事実 に 気づかせたい。	○音が出ている時 の状態に着目し ているか。
	予想→観察 —グループで (個人メモ) (個人メモ) (バズ)	○個人思考 (メモ) の結果を 話し合わせる。	○状態が よくわ かるように 相 手に話せたか。
	6 実験観察の結果 わか ったことを まとめる。 (グループ発表) による。	○音が出る時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">物がふるえて いる</span> 同時現象としてとらえ させ 事実からたしかめ させたい。	
7 つぎの学習をしる (カードにかく)	○次時学習への めあてをもた せる。 ○自己評価をさせる。	○自己評価が で きたか。	

指導者 速水正順

## 1 題材 五色のしか

## 2 目標

## 認知的目標

- (1) 読んで、感想をもたせる。
- (2) 表現に即して読み、表現のすぐれているところに気づかせる。
- (3) 昔話に興味を持たせ、人間の生き方や信頼の情の大切さに気づかせる。

## 態度的目標

- (A) 深く読み調べ、男の心情の変化やしかの心にふれ、感想を持つようとする。
- (B) 人の考えをよく聞いて、自分の考えを広めようとする。

## 3 教材の取り扱い

さまざまな読み物に興味を持つこの時期の子ども達に、昔話に親しませ、その良さを味わわせる機会としたい。内容の表面的な読み取り（悪い男だ、いいしかだ）に終わらず、表現に即して登場人物の行動や心情などをきめ細かに読み取らせ、表現の美しさを味わいながら、その言動や考え方についても共感的に、あるいは批判的に読もうとする主体的、創造的な読みを旨としたい。

## 4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1. 学習計画を立てる。	○全文を読んで学習計画を立てよう。	3
2. 登場人物の行動や心情を場面ごとに分けて読みとる。	○1、2、3ごとの場面を読んで考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・助けたしか、助けられた男の気持ちを考えよう。</li> <li>・男の気持ちを考えよう。</li> <li>・男を見た時のしかの気持ち、しかの話聞いた時の王様の気持ちを考えよう。</li> </ul>	5  (本時はその3)
3. 読後の感想をまとめる。	○感想を書き、話し合おう。	2

5 本時の目標

認知的目標

- (1) 約束を守ろうか、それとも宝物をもらおうかと思い迷って、ついに約束を破った男の気持ちの動きを、表現に即して、男の立場に立って考えさせる。

態度的目標

- (A) 男のしたことや考えたことから、男の迷い気持ちを考えようとする。  
 (B) 人の話を比べて聞き、自分の考えをしっかりと話そうとする。

6 本時の指導過程

学習課題		男の気持ちを考えよう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備 中 心 確 認	1. 勉強の目あてを知る。	○課題を提示する。	課題への関心がある。
	2. 男の気持ちがよくわかる所を考える。 (全体バズ)	○表現に即して、心の迷いや決心などを詳しく読みとらせる。	詳しく読んで、みつける。
	3. 男の気持ちの動きをどう思うか、考える。 (個人思考)	○男の立場に立たせて、気持ちの動きから男をどのように思うかを考えさせる。	男の気持ちを、真剣に考える。
	4. 考えたことを話し合う。 (グループバズ)	○考え方の根拠を明確にさせる。	自分の考えを積極的に話す。
	5. 男の気持ちについての考えをまとめる。 (全体バズ)	○しかとの大事な約束を破ったことへの批判と、あわせて人間として迷う男の気持ちにも共感させたい。	友だちの考えと比べて聞く。
	6. 場面2を読む。	○まとめの読みを指示	登場人物の気持ちを考えて読む。

指導者 豊田 宸 典

## 1 題材 高い石の柱（童話）

## 2 目標

## 認知的目標

- (1) 読みとったことについて感想や意見を話し合い、ひとりひとりの受けとめ方のちがいについて考えさせる。
- (2) 表現にそくして、できるだけ場面や情景をえがかせる。
- (3) 登場人物や作者の考え方を通して、人間としての生き方について考えさせる。

## 態度的目標

- (A) 全文を読んで登場人物の行動や考え方を読みとろうとする。
- (B) 友だちの考えをよく聞き、わかってもらえるようにくふうして話そうとする。

## 3 教材の取り扱い

内容は前半（1～5）が王様、家来、石屋を中心に展開される童話で、後半（6～7）は作者の付記として人間の生き方について考えさせようとしたものである。話の筋は、わかりやすく容易に理解できると思われるが、それだけに表面的なとらえ方にもおち入りやすい。本教材の意義が人間の生き方の追究にあるとすれば、子どもたちひとりひとりに対照的な3人の行動や考え方を十分吟味させなければならない。また、3人の行動や考え方の追究は、（6～7）の学習の土台となるので、個々の子どもの読みと内容の受けとめかたに重点をおきたい。

## 4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1 全文（1～7）を読み、話の筋を大づかみする。	○「高い石の柱」を読もう。	1
2 学習計画を立てる。	○話の筋を考え、学習計画を立てよう。	1
3 童話の部分（1～5）を読み、感想を書く。	○童話の部分を読み、感想をまとめよう。	1
4 感想を発表する。	まとめた感想を発表しよう。	1

5 登場人物（王様、家来、石屋）の行動や考え方について調べる。	○王様、家来、石屋の行動や考え方について調べよう。 ○石屋の行動や考え方を、王様や家来の行動や考え方と比べながら話し合おう。	2 1 (本時)
6 後半（6～7）の内容を読み、作者の書きたかったことについて考える。	○作者は、どんな考えを持っていたのだろう。	1
7 全文を読み、感想を書く。	○「高い石の柱」について感想を書こう。	1
8 学習後の評価	○プリントの問題を考えよう。	1

## 5 本時の目標

### 認知的目標

石屋の行動や考え方を、王様や家来の行動や考え方と関連させ、明らかにさせる。

### 態度的目標

(A) 石屋の行動や考え方を文章の中からみつけようとする。

(B) 友だちの考え方や受けとめ方のちがいをよく聞こうとする。

## 6 本時の指導過程

学習課題		石屋の行動や考え方を、王様や家来の行動や考え方と比べながら話し合おう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備中	1. 課題を確認する。 2. 石屋の行動や考え方についてグループで話し合いまとめる。	○課題提示 ○自分の考えの根拠をはっきりさせる。	○課題に関心がある。 ○積極的に話そうとする。
心	3. 感想を全体で話し合う。各グループから感想を出し合って話し合う。	○くらべてよく聞き、考え方のちがいに気づかせる。	○よく聞こうとする。 ○積極的に話そうとする。
確認	4. まとめをノートに書く。	○学習のまとめ。	○よく聞こうとする。

第4学年3組 国語科学習指導案 2校時

指導者 徳田慶子

1 題材 高い石の柱（童話）

2 目標

認知的目標

- (1) 読み取ったことについて、感想や意見を出し合い、ひとりひとりの受け取り方の違いについて考えさせる。
- (2) 場面や情景を思い描くとともに、王様、家来、石屋、作者などの考え方を読み取り、人間としての生き方について考えさせる。

態度的目標

- (A) 友だちの感想や意見から、自分の考えをより深めようとする。
- (B) 自分の考えをしっかりと持ち、友達の意見と比べながら聞こうとする。

3 教材の取り扱い

王様、家来、石屋の三人の言動や考え方は対照的でおもしろく、子どもにいろいろな感想や意見をもたせるものと思われる。そこで、これら登場人物のひとりひとりに焦点をあて、友だちの感想や意見を聞くことにより、登場人物に対してより深い考えを持つようにさせたい。

「悪いものは、必ずむくいを受ける」という考えはしやすい。「相手が正しい考えを持つように、じょうずにやる」という作者の考えを読み取らせ、自分たちの生き方を考えさせたい。

4 指導計画

指導内容	学習課題	時
1 1～5を読み、第一次感想を書く。	○第一次感想を書こう。	1
2 感想を発表し、学習計画をたてる。	○学習計画を考えよう。	1
3 登場人物の感想を発表し合い、それぞれの人物の考え方を読み取る。	○王様、家来、石屋の行動から感想を持ち、それぞれどんな人か考えよう。	4 ( $\frac{4}{4}$ 本時)
4 6～7を読み、作者の考え方を読み取る。	○なぜ作者が6～7の話をつけたのか考えよう。	2

5 主題を読み取り、感想を書く。	○作者は何が一番言いたいのだろうか 考えよう。	1
6 学習後の評価をする。	○練習とまとめをしよう。	1

5 本時の目標

認知的目標

(1) 石屋に対する感想から、石屋の考え方を読み取らせる。

態度的目標

(A) 感想や意見から、石屋の考え方をより深めようとする。

(B) 自分の考えをしっかりと持ち、友達の意見と比べながら聞こうとする。

6 本時の指導過程

学習課題		石屋はどんな人だろう。		
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点	
準備 中心   確 認	1 課題確認する。	○課題を提示する。	○課題に関心がある。	
	2 グループで石屋の行動に対する感想を発表し、感想のちがいを話し合う。	○自分とのちがいを比べながら話し合わせる。	○わかるように話そうとする。	
	3 全体でいろいろな感想を出し、話し合う。	○石屋に対していろいろな考えが出てくるようにする。	○比べながら聞こうとする。	
	4 石屋はどんな人かノートに書く。	○石屋は王様に対して、どう思っているかという点からも考えさせる。	○よく考えようとする。	
	5 自己評価する。			

第5学年1組 算数科学習指導案 2校時

指導者 藤枝 すす子

1 単元 平行四辺形・台形・ひし形の面積

2 目標

認知的目標

- (1) 平行四辺形・ひし形・台形の面積の求め方を考えそれを公式の形にまとめさせる。
- (2) (1)で求めた公式を用いて、面積を求めることができるようさせる。

態度的目標

- (A) 簡単に公式にたよらず公式を作り出すまでの過程を論理的に追求しようとする。
- (B) 自発的に個々の考えを述べ、友だちと協力しあって、さらに深めようとする。

3 教材の取り扱い

面積を求める学習は、前学年でもまた本題材に至るまでにも、合同な直角三角形を組み合わせる・三角形に分割する・等積変形するなどの方法で図形を求積してきており、面積測定についての理解は一応深まっていると考えられる。しかし、個々に入って、現学級の実態をつぶさに観察する時、長さを測って面積を計算で求めればよいと、安易に考えその根底に、単位面積がいくつ並ぶからという測定のもとの意味が理解されていない児童が目立って多い。かかる点を十分考慮して、ただ求積方法が公式にあてはめる計算練習にならぬよう筋道を立てて考えていくことにより、最も合理的な求積方法を生み出させ、それが公式化されていくよう、この点に特に重点をおいて指導していきたい。

4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1 平行四辺形の面積を求める公式を見つけさせる。	○平行四辺形の面積の求め方を考えよう。	1
2 台形の面積を求める公式をみちびき出させる。	○台形の面積を計算で求める方法をいろいろ考えよう。	1 (本時)
3 ひし形の面積の求め方を考え、対角線の長さを測って面積が求められることに気づく。	○ひし形の面積の求め方を考えよう。 ○学習を思い出して問題を解こう。	1
4 まとめのテスト		



5 本時の目標

認知的目標

方眼紙上にかかれた台形で、必要なところの長さを読みとり、いろいろな方法で求積させ、その最も合理的なものとして台形の求積公式を見つけさせる。

態度的目標

(A) 自分の知っている面積の求め方をつかって、いろいろな方法で考えようとする。

(B) 自分の考えを進んでのべ、他の意見も求めて互いにみがきあおうとする。

6 本時の指導過程

学習課題		台形の面積を計算で求める方法を考えよう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備	1 本時の学習のめあてを知る (個人思考)	○全児に課題を確認させる	意欲的に課題と、とりくんだか。
中	2 方眼紙上に書かれた台形の面積を計算で求める。 例(A)2つの三角形+長方形 (B)2つの三角形の和 (C)合同な2つの台形の和 (グループバズ)	○それぞれの能力に応じて既習の知識をうまく出させてその方法を考えさせる。 (A) $2 \times 4 \div 2$ $1 \times 4 \div 2$ } + $4 \times 3$ (B) $6 \times 4 \div 2 + 3 \times 4 \div 2$ (C) $(6 + 3) \times 4 \div 2$	他人に左右されずねばり強く考えているか。  分割・変形・合同などいろいろな方法が考えられているか。
	3 各自の求積方法を話しあい最もよい方法を見つける。 (全体バズ)	○個人思考したものが、グループバズや全体バズによって	進んで自分の意見をのべ他人の考えとのちがいに気づこうとしているか。
心	4 グループの相互の方法を出しあい本時の課題解決に迫る。 (まとめ)	互いにねりあいよりよい求積、つまり(C)の方法がよいことに気づかせる。	
	5 みつけた方法をことばの式で表わしてみる。	○(上底+下底)×高さ÷2のことばの式をわからせる	よい方法がわかったか。
	6 他の台形でもたしかめてみる。	○時間がなければ省略する。	もっとやりたい気持ちがあるか。

第5学年2組 算数科学習指導案 2校時

指導者 小川 征子

1 単元 考えましょう (3)

2 目標

認知的目標

- (1) 解答や条件に範囲がある問題を解決する能力を養う。
- (2) いろいろな事象について、順序よく推論を進め、判断をくだす思考力を養う。

態度的目標

- (A) 落ちや重なりなく、順序よくすじ道を立てて考え、最も都合のよい場合を求めようとする。
- (B) 自発的に個々の考えを上げ、友だちと協力し合って、さらに深めようとする。

3 教材の取り扱い

文章題のため、題意の理解が充分できない者もかなり居ると思われるので、できるだけ具体的な場面で条件をはっきりさせてから、問題解決に当るよう指導したい。また、直観的、偶発的に解答を見つけれられても、すじ道立てて思考し説明できない者も数多い。本単元では、できるだけ論理的な思考が充分できるよう特に配慮したい。

4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
1 全単元を見通し、学習計画をたてる。 2 それぞれが範囲のある2組の条件から求められる解答を考えさせる。	○全単元を見通し、学習計画をたてる。 ○組の人数の範囲を考えて、条件に合ういすの数を考える。	1
3 解答に範囲がある問題を考えさせる。	○条件を明確にし、駐車料金と駐車時間の範囲について考える。	1
4 数量に関して、順序よく推論を進め、判断する問題を考えさせる。	○三人のまとあて競争の得点について考える。	1
5 事象の組み合わせや順序について、順序よく推論を進め判断する問題を考えさせる。	○ドッジボールの試合の成績について、いろいろな組み合わせで考える。	1 (本時)

5 本時の目標

認知的目標

(1) いろいろな事象について、順序よく推論を進め、判断をくだす考えを養う。

態度的目標

(A) チームの組み合わせを、条件に合わせて順序よく考えようとする。

(B) 自分の考えを進んで述べ、他の意見も求めて互いにみがきあおうとする。

6 本時の指導過程

学習課題		ひろし君とみのる君の予想をもとに、ドッジボールの成績の順位を考えよう。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備 中 心 確 認	1 学習課題について知る。 (個人)	○学習課題を提示する。	
	2 ドッジボールの試合の成績の順位について調べる。 (グループバス)	○ひろしとみのるの予想をもとに、両方の条件に合う順位を見つけさせる。	○熱心にとりくんだか。
	3 各自の順位についての考えをグループで話し合う。 (全体バス)	○バスによって、各自の考えを確かめ合い、深めさせる。 ・できるだけ進んで自分の考えを述べ、他の意見もよく聞くよう指示する。	○進んで自分の考えを述べ、深めたか。
	4 グループでの話し合いを発表する。 (個人思考)	○A、Dはともにだめ。 Bがあたっているとすると、3位はAかCになる。みのるがあたっていないからだめ。あたってのはC。	○より良い方法について理解したか。
	5 100m競争の順位の予想をもとに、発表された順位を考える。	○まさ子とかず子の予想を表に整理させる。	○学習意欲の高まりはあったか。
	6 次時の学習について知る。	○次時の学習について確認させる。	

第6学年2組 算数科学習指導案 2校時

指導者 北村三郎

1 単元 考えましょう

2 目標

認知的目標

- (1) 簡単なことからについて、場合を順序よく整理して、そのすべての場合をあげたり、数を求めたりすることができるようにさせる。

態度的目標

- (A) 起こりうる場合をいろいろに考え、落ちや重なりのないよう、順序よく整理して考えようとする。
- (B) 課題解決に全員が参加することをめざし、協力し合って深める。
- 自発的に個々の考えを上げたり、深めたりしようとする。
  - 相手の立場を尊重し合って意見を聞いたり、話したりする。

3 教材の取り扱い

場合の数を考える問題は、これまでもいくつか経験しているが、必ずしもすべての場合をつくすまでにいたっていない。そこで本単元の指導では、落ちや重なりのないようにその条件にあてはまるすべてを考えさせ、順序よく整理して調べていく能力をねりたい。

4 指導計画

指導内容	学習課題	時
1 学習前テストを行ない、全単元を見直し学習計画を立てる。	○ 学習計画を立てる。	1
2 簡単なことからについて、起こり得る場合と、その数を順序よく整理する。	○ ある数の中から決った数だけ選ぶと組み合わせは何通りできるかを考える ○ いくつかのものを全部並べる場合に何通りの並び方があるかを見つける。	2 ( $\frac{2}{2}$ 本時)
3 やや複雑なことからについて、起こり得る場合と、その数を順序よく整理する。	○ やや複雑な組み合わせの場合の問題を順序よく整理して考える方法を知る ○ やや複雑な場合の組み合わせの時題でどんな組ができるかもれなく考える。	2

5 本時の目標

認知的目標

- 簡単な場合について、順列とその場合の数を考えさせる。

態度的目標

- (A) 起こり得る場合の数を、順序よく整理して考えようとする。
- (B) 友達の考えをよく聞き、進んで自分の考えものべ合って深めようとする。

6 本時の指導過程

学習課題		いくつかのものを全部並べる場合に何通りの並び方があるかを見つける。	
区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備	<p>1 3枚のカードで3桁の数がいく通りできるか調べる。</p> <p>(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カードを並べたり、ノートに書いて考える。</li> </ul> <p>(グループバズ)</p> <p>落ちや重なりなく、すべてをあげているか話し合う。</p> <p>(全体)</p> <p>順序よく整理したか検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何を読んで課題を把握させる。</li> <li>○ 可能な場合のすべてを求める意味であることを明らかにする。</li> <li>○ 落ちや重なりのないよう順序よくあげるよう注意する。</li> <li>○ 友達の考えと自分の考えを比較しながら話し合わせる。</li> <li>○ 考えていった、道すじ、過程を問題として検討していく。</li> <li>○ 特定のものに注目する考えをおさえたい。</li> <li>○ 父のところ固定に気づかせる。</li> <li>○ 考える対象を記号化、図式化し起こりうるすべてを上げさせる。</li> <li>○ 観点が明確で、条件を満たしているか確かめさせる。</li> <li>○ 1の問題と同じことに気づかせる。</li> <li>○ 順序立てて考えていくことの利点に気づかせる。</li> </ul>	<p>めあてを知ったか。</p> <p>意欲的に取り組んだか。</p> <p>進んで話し合いに参加し、考えようとしたか。</p>
中心	<p>2 兄弟3人が自動車に乗るときにすわり方を調べる。</p> <p>(個人)</p> <p>好きな図に書いて考える。</p> <p>(グループバズ)</p> <p>図(表)など有効に使い、順序だてて考えたか話し合う。</p> <p>(全体)</p> <p>考え方を発表し合い検討する。</p> <p>思考のあとをふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1の問題と同じことに気づかせる。</li> <li>○ 順序立てて考えていくことの利点に気づかせる。</li> <li>○ 次時の学習への意欲づけを図る。</li> </ul>	<p>自分で創り出して考えようとしたか。</p>
確認	<p>3 次時の学習課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時の学習への意欲づけを図る。</li> </ul>	

特別学級 高学年部 学習指導案 2校時

指導者 布施 恵 津

1 単元 カレンダー作り

2 目標

認知的目標

- (1) 1年を通して、四季、曜日、月、週、祝祭日、きのう、きょう、あす、あさって等がわかる。
- (2) 能力に応じて、いろいろな版画の方法を使って書き、数字も正しく書ける。

態度的目標

- (A) きめられた仕事にしたがって、責任をもってやりとげる。
- (B) おたがいに助け合って、なかよく仕事を進めるとともに、あとしまつもきちんとやれる。

3 教材の取り扱い

修学旅行や遠足等で、カレンダーはとりあげている。それを手がかりに新しい年のカレンダーに関心を持たせるようにもっていき、日数の数え方や、季節的な変化がわかるようにしたい。「こよみ」という昔からつかわれているものにふれることもたいせつなことと思う。四季や、12か月の学習から、理科的なこと、社会科的なことも関連して理解させることができると思う。新しいカレンダーを写すということだけでなく、見通す力もつけられるようになってほしい。また、作り上げたものを、ふだんお世話になっている人たちへ、感謝の気持ちをもつことができ、あいさつや、おれいのことばもいえるようにし、人に接するときの心のつながりこそこの子たちにとって尊いことである。5、6年7名で、仕事は少しずつ助け合えるようになってきた。

4 指導計画

指 導 内 容	学 習 課 題	時
○四季をわからせる。○1年は12か月あること	○ことしのカレンダーを読む	2
○曜日、祝祭日、大小の月(うるう年) ○数字の配列、きのうきょう、あすあさって	○新しい年(1974年、昭和49年)のカレンダーを調べる	4
○版画を作ったり、すったり、数字の書き方、とじ方、道具の使い方 ○仕事の手順、協力することのたいせつさ	○新しい年のカレンダーをつくる。(1月の日付を書きこむ) 本時	15

<ul style="list-style-type: none"> <li>○作ったカレンダーを見なおしながら、カレンダーの必要性をたしかめる。</li> <li>○ふだんお世話になった人たちには、感謝の心を持つことは、人間としてたいせつである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的行事を知ったり、決まりある生活にはかかせないものがある。</li> <li>○作ったカレンダーを配る。</li> </ul>	4
---	---	---

5 本時の目標

認知的目標

- 1週間、1か月、大小の月、土曜、日曜、祝祭日を知る。数字が正しく書ける。

態度的目標

- (A) ことしのカレンダーをもとにして考えようとする。
- (B) 能力に応じた力を出し、足りないものを補い合う。

6 本時の指導過程

区分	児童の活動	教師の活動	評価の観点
準備中          心       ま と め	<p>1 きょうの学習や仕事をきく</p> <p>2 ○月別の画をみながら、お話を する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つきの仕事はどんなことを するのか話合う。(2人、3人バズ)</li> <li>○数字は、どんな書きかたが よいだろうか。(個人バズ)</li> </ul> <p>3 ○1月の土、日曜、祝祭日と ふつり日をくべつして書きこ む。(教師と1対1のバズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○7人の書いた日付を比べて 自分のはどうか。友だちのは どうかと思ったことを発表す る。</li> </ul> <p>4 ○つきに時間をすることをき いておく。</p> <p>5 ○あとしまつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話がききやすいようにくふ りする。</li> <li>○たどたどしいながらも、自 分の思っていることが大き な声で発表できるようにか じをとる。</li> <li>○カレンダーの数字は、正し く、大きく、だれにでもわ かりやすく書くことに気づ かせる。</li> <li>○友だちの作品を見て、ひと つでもいいから話せるよう に力づける。</li> <li>○学習のまとめをする。</li> <li>○協力して、順序よく仕事が やれるように導く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○しっかりきけ たか。</li> <li>○きく人によく わかったかど うか。</li> <li>○話しているこ とが、少しず つでも、中心 にふれている かどうか。</li> <li>○よくわかるよ うに書けてい たか。</li> <li>○なかよく助け 合えたか。</li> </ul>

## 電 車 ・ バ ス 時 刻 表

東海道本線 能登川駅発

	上	り	下	り
第一日	15:49	米原行	15:59	西明石行
	16:11	大垣行	16:34	〃
	16:52	米原行	17:09	姫路行
	17:11	大垣行	17:23	赤穂行
第二日	12:11	大垣行	12:01	西明石行
	12:47	米原行	12:32	〃
	13:46	〃	13:29	〃

近鉄バス(八日市—能登川線) 竜田口発

	能登川駅行	八日市駅行
第一日	15:25	15:43
	16:15	16:13
	16:50	16:48
	17:20	17:23
第二日	12:05	11:58
	12:35	12:28
	13:05	13:03

近江鉄道 五個荘駅発

	上	り	下	り
第一日	15:49	彦根行	15:57	近江八幡行
	16:11	米原行	16:19	〃
	16:33	彦根行	16:41	〃
第二日	12:09	米原行	11:55	〃
	12:31	彦根行	12:39	〃
	13:15	米原行	13:01	〃

近鉄バス 国道竜田口発

木之本行	近江八幡行
16:49	16:48